



患者さんの意志を尊重し、 チーム医療を支える薬剤師の想像力

京都府北部にあるゆう薬局の薬剤師Tさんは新卒で入局、5年目の28歳です。両親も薬剤師で、祖母の入院時、薬剤師の献身的な姿に憧れてこの道を選びました。

そんなTさんが出会ったのが、胃ろうで栄養を摂っている80代の萩さん(仮)。ご本人は薬局へ通えるほどの身体ではないため、ご家族による処方薬受け取りを希望していました。本来、直接患者さんと接して、副作用を含め薬の効用を評価するのが薬剤師の役割。Tさんは費用をご負担いただいても、自宅に訪問して薬を届けることも考えました。でもTさんは、ご本人と、実際にサポートするご家族の意思を尊重することに。代わりに家族や医師と密に連携し、安心して在宅療養が送れるよう心がけました。

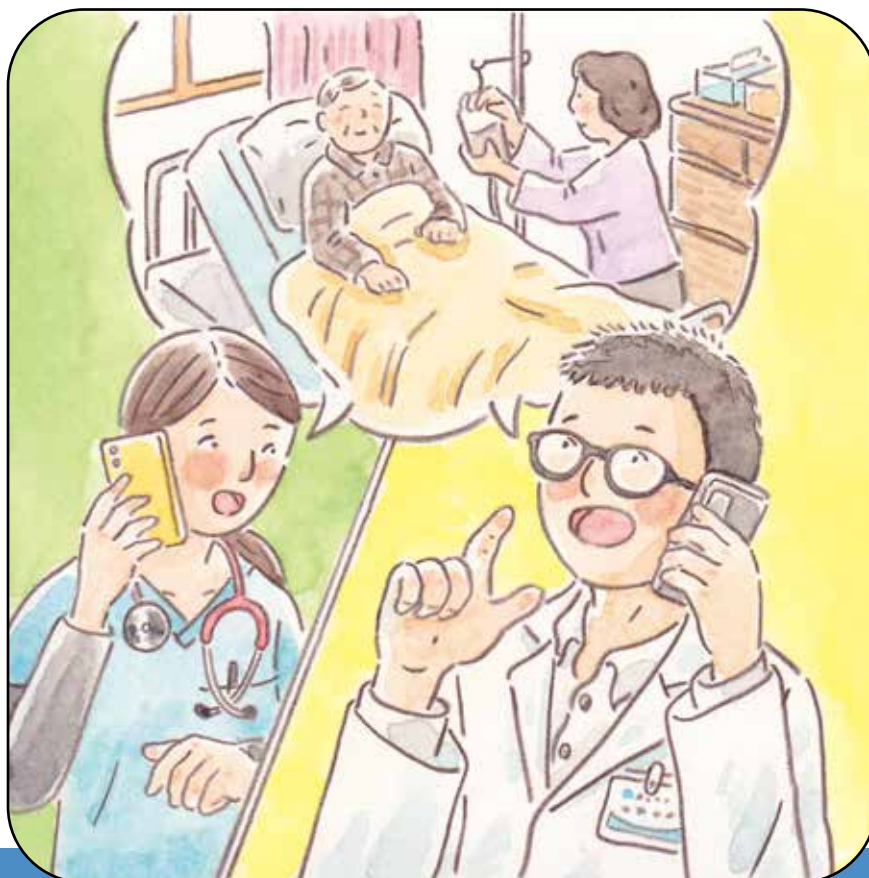
たとえば、ストレスのない服薬。胃に直接薬を送り込む胃ろうでは、錠剤は砕いておくケースがあります。しかし、薬は砕くと湿気を帯び、扱いにくくなる難点があります。通常では3ヶ月分まとめて渡すこともあります。Tさんは医師に相談。家族が来局する2

週間分ずつ、粉碎・分包、光で劣化しやすい薬は遮蔽袋に入れ、のべ9種類の薬が最適な状態になるよう心を配りました。

「薬をきちんと服用してもらえよう、環境を想像することが大切だと思います」とTさん。医師や看護師、ヘルパー、ご家族とも情報共有を重ね、患者である萩さん中心のチーム医療を構築していきました。

その後、萩さんは持病のガンが悪化。残念ながら3ヵ月後にお亡くなりになりました。そんななか、訪問看護師からTさんに電話が入ります。「萩さんのご家族から伝言です。Tさんにとっても感謝しています。母への温かい見守りとプロの助言をありがとうございます。ありがとうございました」。思わず泣きそうになったというTさん。「見えない部分にも想像を巡らせて、患者さんの生活を見守る。その姿勢が伝わっていたんですね」。

患者さんの思いを第一に、チームで支える地域医療。従事者の一人としてより信頼される薬剤師になりたいと、Tさんは先輩方からどんな欲に学ぶ日々を送っています。



豆知識

嚥下(飲み込み)と服薬

食事を飲み込む嚥下機能が低下すると、服薬時にも注意が必要です。噛み砕いたり割ったりすると効果が変わる薬も多数あります。心配な方は自己判断せずに薬剤師に相談して下さい。

ゆう薬局グループ本部・宇野薬局

☎075-771-1690(本部)
●京都市左京区浄土寺下馬場町106

もよりバス停は「錦林車庫前」